



国内誌編集委員会

国内誌編集委員会担当理事・委員長 下堂 恵

国内誌編集委員会では、日本リハビリテーション医学会の国内誌である『The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine (JJRM)』の編集を行っています。JJRM はリハビリテーション医学の発展に資する学術誌として、投稿された論文の審査をはじめ、リハビリテーション医学や医療に関する最新の情報を提供する「特集」や「教育講座」などの企画も行っています。

JJRM では、10 年前より本医学会会員のみならず非会員からの原著論文や症例報告などの投稿を受け付けており、2023 年には 65 編の投稿（会員比率 46%）がありました。この 10 年で投稿数は約 2 倍に増加しましたが、採択率は 69% から 38% へと変化しています。質の高い論文の掲載を増やすべく、今後も「国内誌論文賞」の選考などを通じて支援して参ります。

1964 年に創刊された前身誌『リハビリテーション

医学』から 60 年を迎えた 2024 年、JJRM は Vol. 61 より完全オンラインジャーナルとなりました。併せて国内誌サイトもリニューアルされ、最新号やバックナンバーへのアクセスに加え、投稿・査読システム「Editorial Manager」や投稿規定・投稿用の各種書式の提供を行っています (https://www.jarm.or.jp/member/journal_domestic.html)。

当委員会の運営は、会員の皆様による投稿論文に対する査読、さらに特集および教育講座原稿の執筆などのご協力に支えられております。この場を借りて深く感謝申し上げます。委員一同、日本のリハビリテーション医学領域のリーディングジャーナルとしての役割を果たせるよう努めて参りますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

診療ガイドライン委員会

診療ガイドライン委員会担当理事・委員長 城戸 顕

診療ガイドライン委員会は、その業務として日本リハビリテーション医学会が主体的、先導的にリハビリテーション医学・医療に関する診療ガイドラインを策定・公表・普及するための業務を行う旨（委員会内規第 2 条）、またその構成は、ガイドラインコア委員会とガイドライン作成のために設置される複数のガイドライン策定委員会からなる旨（同第 3 条）定められています。現時点で遂行中の業務は、がんのリハビリテーション診療ガイドライン（第 3 版）改訂（宮越浩一策定委員長）、下肢切断のリハビリテーション診療指針（菊地尚久策定委員長）、神経・筋疾患、脊髄損傷の呼吸障害：リハビリテーション診療ガイドライン改訂（花山耕三策定委員長）の 3 つで、各々の専門分野で精力的に鋭意取り組んでいただいています。統括副理事長の中村健先生のご指導のもと、診療ガイドラインコア委員会は、先ほどの 3 名の策定委員長に、西

村行秀先生（副委員長）、幸田剣先生、私を加えた 6 名体制での実働です。

診療ガイドラインの策定はその性質上、一般的な科学研究とは少し異なった趣を持つようにも感じられます。新しい知見を切り拓く、という意味合いとはむしろ正反対の方向性を持つ、すでに世にある知見の「交通整理」といった感想を持たれる方も多いかもしれません。しかしながら、この規則正しく教条的な反芻作業の中から生まれてくる勧告、指針の中には、多くの先達の残した科学的精神の髓が濃縮されていることと、その大きな価値を信じて、現在、策定委員にご就任いただいている先生方、そしてこれから新たなプロジェクトにご就任いただく先生方にも是非ご尽力を賜りたいと考えています。医学会会員の皆様におかれましても、今後とも診療ガイドライン委員会活動へのご理解、ご助力を何卒よろしく願い申し上げます。